

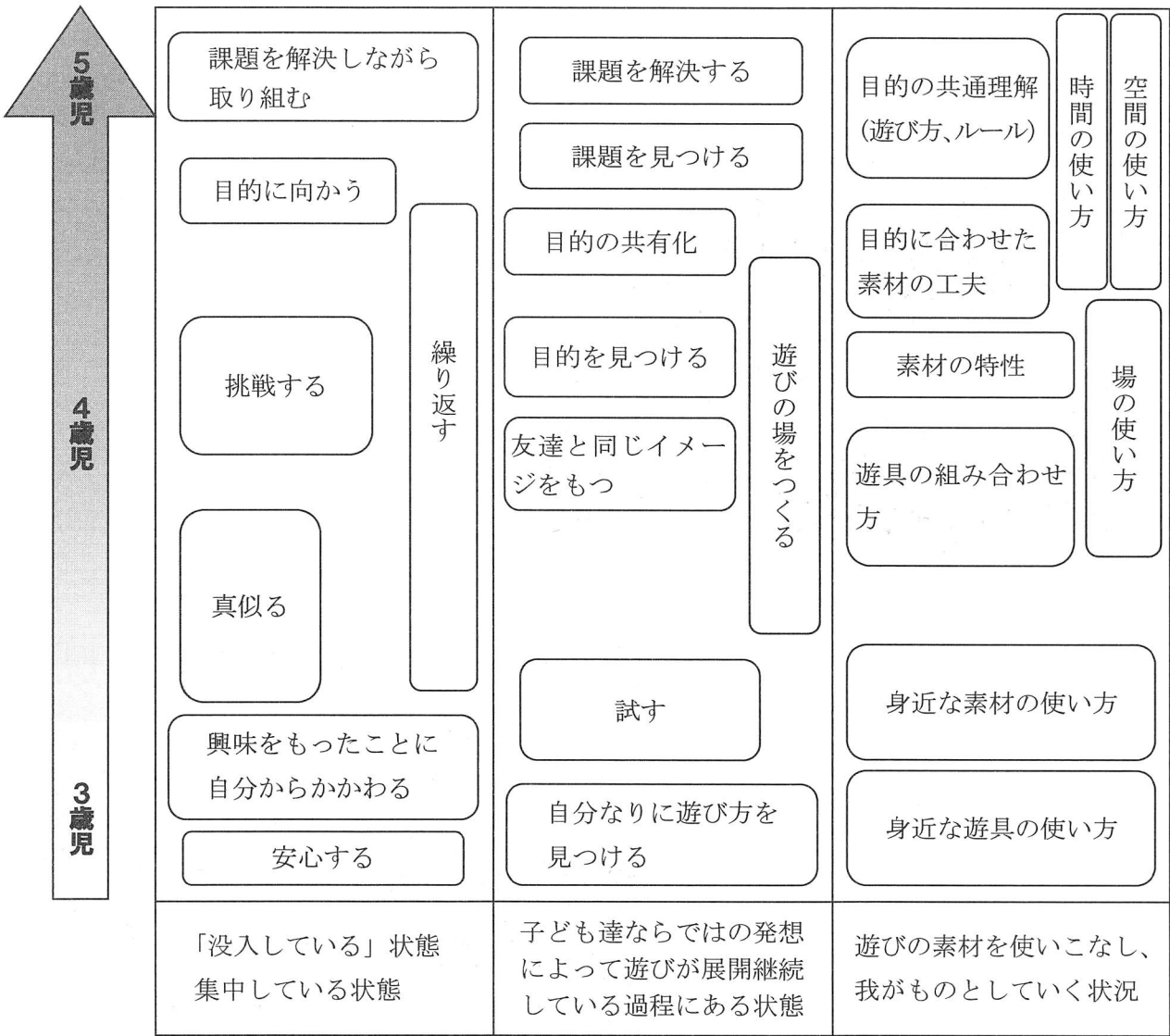
第 3 章 研究のまとめ

1. 研究のまとめ

今年度、私達は「幼稚園における遊びを探る」というテーマを掲げ、さらにサブテーマを「遊び込む姿をめざして」とし、事例を持ち寄り、話し合いを積み重ねてきた。そして、各学年『1 年を振り返って』と題し、各学年の遊び込む姿、環境の構成、教師の援助の特徴をまとめるに至った。(P 1 3、3 6、6 1)

その中で見えてきたことを以下にまとめることにする。

< 遊び込む姿からみえてきたキーワード >



（１）「目の前の楽しさ」から「未来の楽しさ」へ

幼児が遊び込むとき、何より遊びの中に楽しさを見出していく。

３歳児は、幼稚園の環境の中で、目にしたものに自分からかかわり楽しんでいく。目の前にある面白そうなことをやってみたり、面白そうなことをしている教師や友達を真似たり、試したりしながら、楽しむ。

４歳児になると、友達の姿にあこがれて繰り返し挑戦したり、友達と一緒に自分達の遊びの場をつくっていくことを通して友達と同じイメージをもって遊んだりするようになる。また、友達と一緒に遊びながら自分なりに目的をもち、工夫したり、繰り返したりするを楽しむようになる。

５歳児になると、友達と一緒に同じ目的に向かって遊ぶことを楽しむようになる。友達と思いや考えなどが異なることでいざこざになったり、より楽しく遊ぶためにはどうしたらいいか考えたりする。その中で、自分達の課題をみつけ、友達と一緒にその課題を乗り越えようとする。幼児は課題を乗り越えた後にある楽しさを知っているからこそ、課題を乗り越えていく。

このように幼児が遊び込んでいるときに見いだす楽しさは、目の前の楽しさから未来の楽しさへと変化していることがわかった。

（２）多様な体験の充実

幼稚園は、教師や友達と一緒に生活する場であり、その中で生活する幼児一人一人の生活経験は異なっている。そのため、同じ場で遊んでいても、思いや遊び方が異なる。そのような生活の中で幼児は自分とは異なる思いをもっていたり遊び方をしたりしている友達に憧れ、真似たり、挑戦したりする。幼児は友達とのかかわりの中で様々な体験を積んでいる。この体験が一人一人の遊び込む姿につながっている。

また一方で、同じ保育室で生活していることはもちろん、行事の取り組みやクラスみんなですんだ経験など、共通体験の積み重ねが幼児の遊びの土台となり、遊び込む姿につながっている。

このように、幼稚園生活の中で、幼児が多様な体験を積みかさねていくことが遊び込む姿につながっていくことが見えてきた。

（３）「遊び込む姿」について

研究に取り組むに際し、本園では秋田喜代美氏の論を参考に、遊び込む姿を分析してきた。事例検討を繰り返す中、＜素材を使いこなす我がものとしていく状況＞の「素材」の捉え方について話し合うことで、「素材」＝「もの」ではなく、「素材」の中には、場や空間という環境が含まれていること、さらには、時間やルールなど目には見えないものも重要であることを共通理解した。

2. 今後の課題

今年度事例を収集する際、ルールのある遊びの姿、挑戦する遊びの姿、遊びに必要なものをつくっていく姿など、教師も目的や成果がわかりやすい遊びに目が向きがちであった。そのため、遊びの一面しか見ることができず、もっと見方を広げていかなければならないと反省している。今後、様々な遊びの姿の事例を収集し、検証していきたい。

